

## 菊地歯車、映像で「工場見学」 採用・若手育成に期待

2021/06/15 18:04 日本経済新聞電子版 1144文字

自動車や航空機向けのギア部品を手掛ける菊地歯車（栃木県足利市）は2022年卒の採用向けに工場内や作業風景を見られる映像コンテンツを配信し始めた。若手社員から「見学した工場が一番きれいだったのが入社を決め手になった」との声もあるため、高い生産性や優秀な人材を生む現場をアピールして採用につなげたい考え。

菊地歯車は1940年の創業。59年に3代目社長として菊地義治氏（現会長）が就任して69年に法人へ組織変更。汎用な歯車からミクロン単位の精度が求められる特殊な歯車まで安定供給して社業を拡大させてきた。

ものづくりの強さの背景にあるのが同社の工場徹底する「5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）」だ。高い生産効率のほか人材育成につながっている。生産現場への視察希望は多く、これまで世界各国の経済団体などを受け入れていた。

しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年春から夏にかけて工場見学は休止せざるを得なかった。21年卒の採用活動はオンライン中心となったが、ミスマッチを防ぐために工場見学は外せないと考え、感染対策を徹底した上で1人ずつ案内した。

緊急事態宣言が再び発令された今年は、昨年の教訓を生かして就活中から内定後までオンラインでサポートする環境を整える。選考に応募した学生にeラーニングサイトのIDとパスワードを発行し、先輩社員のキャリアパス紹介や歯車製造において重要な工程の歯切り加工などを映像で見られるようにした。

同社は従来から入社後の教育に力を入れてきた。従業員のほとんどは入社後に歯車を一から勉強するが、全従業員156人の約7割が国の技能士資格を取得。うち9人が特級技能士として活躍している。受験費用は会社が全額負担している。22年度入社予定者には一般的なビジネスマナーや業界への理解を深めるための学習コンテンツをeラーニングサイ



「5S」を徹底する工場を映像で見られるようにした



「従業員が幸せに働ける魅力的な会社になりたい」と話す田部井主任

トで順次配信し、内定段階から育成する。

4月から対話アプリ「LINE（ライン）」の公式アカウントを社内向けに導入した。従業員に社内ニュースを配信するほか、経営改善の意見を寄せてもらう「目安箱」としてチャット機能を使う。福利厚生などの情報が行き届くようにし、同社の一員としての意識を高めてもらうためだ。



対話アプリ「LINE」を社内掲示板や目安箱として活用する

こうした従業員の働き方改革やデジタルトランスフォーメーション

(DX)に取り組むため、同社は20年に総務財務部を経営管理部の名称に変えて、新たに人事広報係を設置。さらにこの動きを加速させるため3年以内に人事課の創設を目指す。経営管理部人事広報係の田部井俊弥主任は「従業員が幸せに働ける魅力的な会社になりたい」と語る。

「人づくりはモノづくり」を原点とする同社。世界で戦える歯車メーカーとして人材育成に一段と力を入れていく。

(宇都宮支局 鈴木菜月)

許諾番号30082750日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.